

## 平成 21 年度二見地区地域審議会概要

- 1 開催日時 平成 21 年 8 月 5 日 (水) 19 : 00 から 21 : 00
- 2 開催場所 二見生涯学習センター
- 3 会議内容 ごみの収集方法等の統一に関する基本方針について
- 4 出席委員 松本徳男委員、山本貞夫委員、濱千代利弘委員、松本誠委員、  
奥野雅則委員、中村恒委員、橋本清美委員、北井伸治委員、北  
村峰記委員、酒徳孝委員、宮後朝訓委員、福井輝夫委員、松本  
昌純委員、八木直己委員、濱條幸久委員
- 5 出席職員 環境課副参事、二見総合支所長、同生活環境課長、同課長補佐  
地域振興課課長補佐

### 7 議事概要

#### 1) 会長あいさつ

今日でごみの問題は決着をつけたと思っています。

#### 2) 二見総合支所生活環境課長から、別紙二見町シュミレーション (素案) に基づき説明

素案においては、プラスチックが週 1 回、後それ以外、缶・金属類、新聞・雑誌・雑紙・布、ペットボトル、ダンボール、資源ビン・ガラス・陶磁器類については、月 1 回の収集でお願いしたいということで素案を示させていただきました。

燃えるごみは、月・木、火・金と二通りのパターンで二見町内を収集させていただきますいておりますが、資源に関しては、二見町内 1 本ということでシュミレーションを考えました。

資源の収集日を、水曜日と金曜日に定め、第 1 週目の水曜日に、缶・金属類、金曜日にプラスチック、プラスチックは毎週金曜日に決めました。第 2 週目の水曜日に、新聞・雑誌・雑紙・布、第 3 週目の水曜日にペットボトル、第 4 週目の水曜日にダンボール、金曜日の第 4 週目に関しては、プラスチックと資源ビン・ガラス・陶磁器類の二つ抱き合わせで出させていただきます。

この水曜日、金曜日というのはいずれも収集日です。この案でいくと分別庫の管理というのは、市が全て管理するということで、火曜日にセットし水曜日に収集、木曜日にセットし金曜日収集という考えでいます。

土、日、月については、資源庫は施錠して使えない状態にしておく。こういう案でこのシュミレーションを組みました。

当然出していただくのは、水曜日の午前 8 時 30 分まで、これは燃えるごみと同じです。

### 3) 質疑等

委員：土、日、月は閉め切りになるのですか。

市：今のところそうです。

委員：以前いただいた資料では、缶・金属類・アルミ・スチール缶分別せずと一緒に出すということですので、同じ袋へ入れていいのですか。

市：はい、結構です。

袋で出していただくか、あるいは、容器をセットしてそこへ入れていただくかはありますが、こちらで分別しますので、あえて分別していただくなくて良いということです。

委員：缶・金属類を以前は無償であったが今はどうか。

市：今は全部清掃センターに持っていきますので、伊勢広域でまとめて収益しています。

二見町の場合は、量が少なかったので、お金になるまでの量ではなかったということです。

委員：資源ごみステーションは閉鎖となるのか。

市：土、日、月に関しては、今の考えではそうです。

市：拠点という形で1箇所、土・日開けておく拠点ステーションを設ける予定です。

会長：二見町のシュミレーションを出していただいたが、光の街は従来の方法を伝承していく。自分たちの自治区だけでやっという案がある。

支所長：光の街からゴミ収集の統一化について（自治会の意見）を出していただきました。

まずペットボトル、アルミ缶、資源ビン、資源の分については、2週間に1回に増やしてほしい。今は月1回ということですが、月2回という考えです。

それから、旧伊勢市と同じようにする必要があるのかという意見も出たそうです。

それから、ごみステーションのカギ、市が一括して管理しますということですが、光の街としては、カギの管理をさせていただきたいという意見があるようです。

それから二見町の時はいつでも出せたのが、特定の日しか出せないということはどうなのかというところがあげてありました。

それで光の街の考えとして、燃えるゴミは今までどおりで結構です。これは可燃ごみについては従前と変わりませんので、そういう理解になると思いますが、2番のプラスチックというのは週1回ということになっています。これを燃えるゴミの日に、ふたパターン二見町内にはあり

ますが、収集日以外の可燃物の場所に、その所へフックを掛けてプラスチックゴミを集めたいというのが丸2の意見です。資源庫ではなくて可燃物の所へ、ネットに入れて置いていたら邪魔にはならないのではないかという提案です。

それから3番目、光の街には4つの資源庫があります。この4つの所を、物を決めて常時出せるようにしてもらって対応してもらいたい。収集の方は、その目的の場所だけに来れば良い訳ですので、出す側と集める側とで利害が一致するのではないかというふうな案を出していただいています。

これは資源の物の量によって、組み合わせを変えることは、光の街としては用意がありますよというところの提案を書いていただきました。

今日は、西川副参事も来てもらっていますが、二見町の外の所でも同じような考えが出来るのかどうか、そういったことも含めて今後話し合っていきたい。

まずは、今日は光の街がこういった意見を出していただいたということをして市として提案を受けたいと思いますので、宜しくお願いします。

会長：前回地域の特性というか今までのことを生かすということは、収集回数は一定、その中で特徴を光の街から案を出していただいたわけですが、自治区には負担が大きいと思いますが、出す方としては今までのことを踏襲できる利点があります。

会長：誰かが管理していかななくてはいけないのですね。

委員：当番が決まっている。4名が当番に入っている。

会長：これは二見町の1自治区が、今までの習慣化されたごみ収集に対する、地域の特性を活かしたわけですね。それで原則は守っている。

これは認めてもらえるのですか。

支所長：これからの話です。

委員：圧力で抑えられると反発もできます。

市：収集の担当部門がこれから、二見町だけでなく、御蔭、小俣色んな地域とのコース設定もありますので、非常に面白い意見ではありますが、今ここで即決で答えを出すのは難しい。

支所長：アルミの考え方はどうなんですか。潰した方がよりたくさん出せますが。

市：言われるとおりで。

市：基本的には、洗って潰して出してくださいということです。

結局、広域工場の方でプレスし、細かくしますので、潰していただいで出していただくほうが容積を確保できますので。

会長：拠点ステーションはいつといつに開くのですか。土、日だけですか。

市：拠点は、水曜、土曜、日曜、祝日です。

会長：もしこの指定された日に出せなかったら、家に置いておくのが辛かったら、美化センターまで持っていただくと、土、日と水曜と祝日は受け取ってもらえるわけですね。

委員：資源ごみのステーションは、火曜と木曜何時から開くのか。

市：設置はおそらく午後になると思います。

その時にカギを開けてセットしていく。そして、次の日に回収に行く。回収時間は地域によってコースによって違って来る。8時30分からということ。

委員：伊勢市は個別収集を行っていますが、同じスタートラインでやるわけですか。やらなければおかしい。同じように進めていかなければ、片方だけやらせて片方は遅い、これでしたらやらないほうが良い

市：前回の地域審議会の場合でも、色々な基本方針を説明させていただきました。それと合わせ旧伊勢市の地域におきましても、今だにたくさん残っている戸別収集の解消に向けて、今本庁の担当課の方を6人3班体制で回っている。本庁管内には121自治会があり、7月末までに180回足を運んで説明している。中には自治会単位では集積化が済んでいるところもあり、済んでいないところは、まず自治会長さんへの説明、役員さんへの説明、それから組頭さん、住民への説明、こういった手順を踏んでやっている。もちろんこちらの方で、資源ごみについて色々な制約が出てくるので、皆さん方が不安を持っているのと同じように、戸別収集を無くすということについても、たくさんの意見があります。設置のする件とか、あるいはこれから先の管理面、その他不法投棄の問題、自治会に加入していない人の問題、こういったものが様々寄せられました。

基本的に旧市内というのは、場所がないというのが一番大きな問題ですけれども、道路の側溝の上とか、あるいは道路の残地、こういったものを探し出して、市役所で地図に落とし、強制ではないけれどもこういった場所も出来ますよと提案している。120自治会大変な抵抗があるのかと予想して説明に伺っていたが、予想に反して、市内のサービスを統一することが新しい市のためになるということで、賛同をいただいている。もちろん、もろ手を挙げて不便になることを喜んでという自治会は少ないのが実態ですが、ただやっていかなければいけないなあということで賛同いただいている。

実際に既に発注を済ませて、戸別を無くす寸前のところもあれば、今ちょうど夏祭りの時期ですので、お休みをいただいているが、各地区で

地図に落としこんで最終的な設置場所を決めてきているものがかなり多くあります。

これは同時に足並みを揃えないと意味がないということもありますので、私どもも一緒にスタートできるように汗をかいておりますが、地区によっては総会をもって最終的に決めさせてほしい。このことについては賛成して、実際には設置場所も決めるが、実際に申請書に判を押すのは、総会まで待ってほしいというのも若干あります。

正直なところ、今年度末に旧伊勢市内が100%集積化が済むとは難しいと思いますが、少なくともこの合併の猶予期間、22年度末までには、皆様方に納得いただけるような数字を挙げるところまで来ている状況です。

どこの地域でも同じですが、高齢化が進んでいて、もって行く距離への不安とか、又市内中心部は意外と平坦部が少ないので、同じ100m歩くのでも、坂を上ったり下りたりがかなりあります。そういうところへの不安もあります。

今までは自分の家の前なので綺麗に出していたけど、みんなと同じところに出すとモラルが崩れるのではないかという不安もあります。

ただ、二見や小俣の地域を見てくださると、やっぱりいったん身についたモラルはそう簡単に崩れるものではないし、避けて通れないことなので、私どもも戸別収集しない方向を宣言し、皆さん方と同じスタートラインにつけるように日々頑張っています。

今までやっていなかったことに対する不安というのは、どこの地域の方もお持ちであると思いますが、旧伊勢市におきましても、みんな同じ行政サービスを受ける。そういうことで、先ずこの不公平感、地域地域のわだかまりをなくしていこうということで、皆さん方理解をいただいていますので、皆さん方に一日でも早く納得いただけるような数字をあげていきたいと思っています。

又この夏祭りが終わりましたら、熱意が冷めないうちに、各自治会に入りたいと思います。

会長：伊勢市の実情についてお分かりいただけましたか。

委員：小俣地区はどんな状況ですか。

市：今まで自由に出していたことに対して、日を設定するということに不満は出ています。伊勢市の戸別を無くしていくと、同じ時期に合わせてやらないと話にならないということも出ています。

委員：サービスの低下である。合併時の条件は、住民サービスを落とさないというのが最低限になっていた。

市：どこの地域でも、強硬に反対の方がいますとその方向に流れていく。

全ての方が同じ意見ではないと思いますが、一部の方は強硬に不満を示していました。どこの地区でも全ての声を拾い上げることは出来ませんので、声の大きい方の声が市民の声と捉えがちになりますが、伊勢市においてもみんながみんな戸別を無くすことを、もろ手を上げて賛成していただいているわけではありません。

伊勢から小俣へ移り住んで実際に戸別から集積収集して街が綺麗になったとか、声を掛け合うことが出来たと喜んでいる方も見えます。

そういうことを経験されてない人は、不便になることだけが前に出てくるため、不安が強くなるように思います。

ただ、市の方向として、戸別はなくなるということは納得いただいていますので、とにかく皆さんが同じスタートラインにつけるようがんばっていきます。

委員：住民説明会に要望をあげたら来ていただけますか。

市：行かせていただきます。

委員：具体的に、水曜日に缶・金属類、新聞・雑誌、前日の昼から集積所に持っていけると言われましたが。

支所長：そのへんはハッキリと、私が聞かせてもらったのは、当日朝からと理解してくださいと言われました。

委員：昼からでは絶対にいけない。極端に言えば前日の夜に来て開けてほしい。朝から入れられるようにしてください。

市：前日の午後からセットしに行く。住民の方は当日の8時30分までに出していただきたいという説明をさせていただく予定です。

支所長：可燃ごみと同じ考えだということです。

会長：だから当日でないといけないのでしょうか。

委員：前の日の午後に資源庫を開けてしまったら、たぶん前の日の午後から持ってくる人がたくさんいると思います。

市：物理的には出せる状態です。

委員：それをどうするかですね。

前日から夜入れてもかまわないのですか。

市：可燃ごみと同じです。可燃ごみの建前というのは、当日朝のうちに出してくださいという考えですが、二見はきちっとした建物に入っていると、前日の夜から入れていても支障がないような状況です。

委員：可燃ごみを夜から出されては困る。うやむやにやっていただければ困る。マナーが完全に壊れる。

会長：当日なら当日とハッキリしてください。今の可燃ごみは当日ですよ。

委員：可燃ごみ当日と言っても、前日から出している。

市：何時からという言い方はしていない。何時までという言い方はしていない。

委員：今までステーションがあって、その中でみんながきちんとやってきたので、前日にセットしてもらってあれば、入れても特に問題はないという気がします。

市：それで問題がなければ、それで運営していても良いと思います。

委員：月1回のペットボトルなら、当日の朝8時ぐらいなら置く場所が無いと思います。

市：二見町においては、資源ステーションに皆さんご存知のエコバックの容器で出していただいています。今後旧伊勢市がやっているように、網袋を資源庫の中に付けて、平均資源庫に20個ぐらい付けて、1世帯で大きなごみ袋いっぱいになると思います。これで5軒ぐらい入るとして、1ステーション100世帯を考えているのですが、これを20個中へ入れる。週1回のプラスチックについては、このオレンジの袋です。

委員：資源庫はあれだけのものである。それ以上入らないのでは。

市：今段で分けていますが、段を取り除き一つのものにしてしまうと、それぐらいはかかると思います。セットした段階で開けておきます。

委員：土、日、月は閉鎖、回収した後で施錠する、場所によっては8時30分に終わったら、その時点で施錠するんですか。

市：そういうことです。

委員：それは気の毒である。みんな一日と考えている。

会長：今の燃えるゴミはそうではない。時間を知っていてそれぐらいに出している。

委員：燃えるゴミは袋に入っている。そこへ置けばよいが、今の話を聞いてみると、それに入れるためには、自分の袋を持ってきて、そこから一つずつ入れるのは結構時間がかかる。

市：ペットボトルについては、アルミ缶のように踏んで小さくして出していただきたい。

委員：ペットボトルもつぶすのですか。

市：そうです。

委員：これまで二見で出ていた資源ごみで、1ヶ月で納まるような計算ですか。

市：茶屋とか三津の国道のところ、溝口の1箇所ぐらいがあふれる可能性があると思います。

市：平均でならずと、いけると数字上では出る。ただ地域によってかなり

差がある。

市：今年度中に、松下に大きな資源庫を増設したが、後2箇所ぐらい資源庫の増設を予定している。随時対応をしていきたいと思います。

委員：住民サービスの低下で絶対にいけない。みんな個人で抱かえている。もって行くところがない。

市：そのために、家に置けない、決められた日に出せない方のために、拠点を作らせていただいた。歩きですと難しい点もある。

会長：出す時間を設定したほうがよいと思う。

1箇所に変な量になれば対応はしていただけますか。

市：物理的に入らなければ、増設は考えなければいけない話です。

委員：今まで資源ごみは、土、日、祭日以外は自由に出していたので、時間を設定したら難しいのではないか。

委員：試行期間はないのですか。4月1日からですか。

市：この地域審議会を含め、各4地区の審議会から意見をいただき、地区連協からの意見、それをもとに最終的に判断いたします。

市：あくまでも素案ということで、ご理解いただきたい。

支所長：当初今月末の予定を今日にしたということは、15日までには皆さんの意見を集約して、本庁のほうへ、それを反映させてもらって議会に諮るということですので、次の9月1日の区長会並びに地域審議会の時には、素案が案に変わったものを、皆さんにご説明させていただくことになると思います。その段階で、これでは納得できないということも出てくるかも知れませんが、地域の説明をその段階から進めたいと思います。

今試行の話が出ました。それから光の街で書いていただいたように月2回ぐらい予定が組めないかという話もあります。そのへんのことを地域審議会の意見として、大きな所としてはそのへんですかね。

是非このへんを訴えていきたいというのがあれば、ご意見をいただきたい。

委員：ステーションを管理する方が委託されているが、そのシステムはそのままですか。マナーを守らない方がいるので、ごみ減量等推進委員さんは苦労しているが、プラスチックに生物が入っていることがある、今後も可能性がありますので、そういう場合今後は市の方で責任もって分別していただけるのですか。又散らかったりすることもある。その場合当日8時30分に来て回収していけば施錠していくわけですから、推進さんはカギを持っていませんので、その辺はきちんと掃除してもらえるのですか。



市：基本的に推進員さんには、掃除してくださいとはお願いしていないので、排出指導、出しに来た人が分からなくなっている時に、トラブルにならない程度に指導してくださいとお願いしています。

委員：これ実施したら、かなり可燃ごみに入っていくと思います。

委員：家に置いておけない家はたくさんある。

委員：前日一日入れられるように要望します。

市：水曜日でしたら、火曜日の朝の内にセットしてくださいということですね。

委員：水曜日の朝からではなくて、前日に皆さんが出せるよう火曜日と木曜日の朝から晩まで出せるように。

委員：皆さん心に思っていることは、住民サービスの低下やと必ず言われると思います。毎日出せたシステムをなぜ崩さなければいけないのか。経費の節約だといわれますが、住民に負担をかけずに経費の節約はどんな手があるのか、どこまで検討されたのですか。

市：旧伊勢市側で60%弱で行っている戸別収集、これを集積にすることは一つの見方としては、サービスの低下だと言えると思います。サービスの高い方に合わせていけば良いのではないかとされる方もありますが、経費を考えると難しい状況です。

委員：毎日出せるようにステーション化をすれば、サービスの低下ではないと思います。今は限られた日だけ個別に出しているわけですね。家の前か何件か集めたところへ、それがステーション化をすることによって毎日出せるということになれば、サービスの低下ではないと思います。これから先、旧伊勢市もそうしていくわけですね。

市：毎日出せるということは毎日回収に行くことになる。

委員：毎日回収に来るかは別の話として、毎日ほり込んでもらっていると思います。それがいわゆる分別を促進する一つの要素だと思います。分別庫が閉まっていたら、ごみと一緒に出そうと、必ずそういう方向になると思います。燃えるごみは増える、資源ごみは減るそういう姿になると思います。

もう一つ、毎日出してもらって量が膨大になれば、今度は、資源を再利用した業者が回収に来てくれると思います。そのへんの検討は行われたのですか。

市：出せる日を設定したら、ごみの資源化率が減るとのご心配ですが、旧伊勢でやっていることですが、日が決まっているから、面倒だからごみに入れるというのは実際ない。4地域で比べても旧伊勢が高いとはいえ、低いことはない。

あといつでも出せるようにするということについては、いついっばいになるか分からないという部分もあって、収集頻度を増やすことになるので経費がかかるということから、資源ごみについては日にちを設定させていただき、燃えるごみについては戸別からステーション化へ変更する。

委員：そうすると回収業者、アルミ缶など実際リサイクルする業者のところへ、こういうシステムをとりたいがどうですかというような話し合いはどうですか。

市：業者はコストがあり、月に1回、月に2回なら伊勢市全体でどれくらいの量というのが出てくるとは思います、いつどれだけ出てくるか分からない。

会長：資源ごみという名前が、分けてしたらある程度業者にしたらお金になるというのは、ほとんどアルミぐらいではないのですか。

委員：ダンボールも現実には、業者が運び、それを換金している。鉄くずでも今は買ってくれます。

取りに来ていただいて、資源ごみなので広域は売却するんでしょう。お金が多少なりとも入るわけでしょう。

委員：素案ということですので、そういった比較検討いただいたのか聞きたかったのですが、アルミ缶は今言われたようにバックありますから、業者に持っていただいても、そのとおりに保育所や幼稚園はそうやっていきますから。市職員の手をわずらわせずに業者が持って行って、いくらかバックが来るんですよね。持って行ってもらっても、人件費よりプラスがあるということです。ここに資源、資源に分けても、一つの塊にすればそういうことは可能だと思います。当然アルミが高い、安い、鉄も安い、高いがあると思うが、時期時期に、そういうところまで検討したうえで、出すのは一緒なんですからと思います。

そのへんを十分検討していただく余地があるのではないのでしょうか。

市：旧二見町の20年度の古紙業者に美化センターに回収に来ていただきました。広域全体の単価と比べると当然安いです。

市：業者さんが二見町の地域で集めたものは、このままの形で回収します。広域工場へ行くと、それをプレスして、裁断して資源にするので、運搬の効率も上がる。

委員：機械のコストのほうが莫大になる。機械が壊れると高い。そのままスクラップ屋に持っていったほうが安い。圧縮機なんかは何千万円もする。その償却のほうが高くついてしまう。

委員：対費用のバランス的なことを考えると難しい。分別収集せず全部燃

やしたほうが安い。

委員：資源のリサイクルを取るか、エコを取るか。経費的なことで言うたら一緒に燃やしたほうが安い。それをやらず、分別もやって、エコのことも考える、どこでバランスを取るかという話になる。

今の話で、つぶす機械が何千万円もする、そのまま持っていったほうが安い。どこで伊勢市としてバランスを取るかですね。

会長：要するに分別してもお金にならないということですね。

委員：ですから、いろんな意味で色んなシステムを考えた上で、素案にたどりついたというのであれば、これは仕方ないと思いますが、住民サービスをまず削って、1億何千万円、ほんとにそれが良いのか。この案はぜんぜん賛成できない、そういう意味では。もっとやりようがあると思います。

会長：ごみの問題は平等ですわな。それぞれやっていると思いますが、要するに資源ごみ、資源と付けるので惑わされる。実際にはお金にならない。リサイクルは労力などを考えたら割に合わない。本当にエコというのであれば、3ランク、リデュース最初の消費を少なくする、その次がリユース何回も使う、最後がリサイクル、リサイクルが一番割に合わない。それを皆さんはサイクルすれば何かになると錯覚を起こす。これは大きな問題、3Rで根本から考えていっても、委員さんの意見も当然といえば当然ですが、なかなか難しい。リサイクルそのものは、あまりクローズアップされて、3R要するにリデュース減らすこと。リユース何回も使うこと、大事に使うこと。それが大きくて、一番経済的に考えて割に合わないのがリサイクル。それを皆さんリサイクルというのは、最上のように錯覚を起こしている。そのことだと思います。日本の各自治体があるいろんなことをやりながら、それはなかなか難しい。

本当は、ごみ問題で一人どれだけ使うのか、二見町がどれだけ使うか知りませんが、都会では5万円ぐらい使っている。一人年間。もっと使うのですか。

委員：住民今15万人ですので、年間のごみに対する経費で計算したらすぐ出ますよね。

会長：そこの根本的な考え方が、大事であると思います。

委員：そういう意味ではお金の問題ではないと、裏返しに言えば、リサイクルするにはお金がかかると、お金の問題ではないと、でもそれは、資源を大切にという意味合いにおいて、お金をかけてもやっていかなければいけないというところから始まってしているわけ。それはそのとおりで、燃えるごみで今の話出したほうが、コストはかからないし、何回

も来てもらわなくていい。分ける必要もなければという話になるので、分ける人の人件費、なおかかっていると思います。

そこで、お金はかかるんだと、でも住民サービスは落とせないというところから、入ってほしいという気持ちがあります。お金をどんどん削るのであれば、資源化を削っていけば、どんどんお金は残ってくると思います。落ち着くところはもうちょっとあるのではないのでしょうか。住民サービスの低下だと思います。

委員：住民サービスが頭から離れない。それであれば先ず旧伊勢市と御菌村を、戸別集積を止めて、二見や小俣のように、伊勢市と御菌で進めてくると、先ずそれをすると、それを作ってから、今の話のように週1回回とか2回、全部がまとめてくれるという段階を踏んでやってもらうのが住民のサービスの低下にならないと思った。

委員：ここでいい案が決まるわけではないですが、私の意見としては、あくまでも住民サービスの低下、そのためにお金を削る、これも分からないでもないが、資源化のためにお金がいるというのであれば仕方ないと、逆に言ったら、そうやって我々は7年前にみんなの手をわずらわせてやってきて、今に至っている。今さらにお金の問題で、こうしようああしようというところに来たと思いますので、先ず足並みをそろえていただくのが第一だと思います。

資源ごみの利用にしても、ISOで二見町は使い捨て容器をアウトにしてやってきた。でも今の伊勢市を見ていると、そんな運動も様子も一切ない、公共で出るのは常に使い捨ての紙コップであり、皿であるというのが横柄に出ているというような気がしますし、そういうことも何もせずにといい気持ちがあります。

委員：御菌の資源ステーションすごく少なかったが、240世帯に1つというとしてつもない数だったので、100ぐらいの数に拡充するという計画は進んでいるのですか。

市：今何箇所か新しく作る新設の申請が出ていて、その準備を進めています。

委員：4月からこの体制になるには、まだ資源ステーション間に合うんですか。

市：現年度予算の中で、やろうとしているので、この4月には十分間に合います。100世帯に1箇所ということですので、25箇所増やすところまではいっていない。

委員：二見町のシュミレーションで、水曜日と金曜日で、水曜日がこれこれで、金曜日がプラスチックと資源ビンとガラス・陶磁器という案が示されましたが、これは地区によって変わるというのはありますか。全部一緒なのですか。旧伊勢市も小俣も御菌も

市：それは変わると思います。

たとえば二見はこれですが、小俣へ行くと火、木となる可能性があります。二見もかならずこれで行くというものではありません。シュミレーションという形で

委員：たとえば自分ところで出しそびれたら、たとえば御菌から鳥羽に通っている人が、途中二見によって出していけば良いという話になるかも分からないし、その逆もあり得るんで、そういうところはどうかと思いましたので、これが全部一緒であれば、御菌で出し忘れた鳥羽へ行く途中で二見に寄ってもいかんという話になるが、そうでなければ、明日二見で出していけば良いわという話にならないのか心配であります。そうすると地域によっては。

市：当然あります。

委員：もう一度聞きたいのですが、掃除当番が作ってあるが、もうしなくていいのですか。施錠するので。

市：もう不可能ですよ。

会長：1ヶ月に1回の収集で、もし祝日に当たったらどうなるのですか。

市：たとえば第1週の缶・金属類が、第1週の水曜日が祝日になったときということですよ、この缶・金属類はいつ集めるのかということですよ。

委員：それが翌日になる、どうなりますとすると、もっとややこしくなると思います。

市：基本は月1回です。

市：代替日を設けないと、2月分となりますので、これは設ける方向になる。

市：受け入れ先の広域清掃工場との調整が必要ですので、それは一方的にこちらで決められませんので、月1回という前提で。

支所長：月1回はかならず実施していただくという考えでよいと思います。

会長：松本さんから根本的な考え方、住民サービスを中心にした根本的な考え方の発想ですが、色々難しい問題がある。その点は、何をリサイクルして、途中でこれはこうやったと、前も言いましたが、牛乳パックのことを。ああいうことのないようにと言ったのは、そういうことも含めて途中で変わることをないように、実際リサイクルできるものは、きちっと資源化できるものなのかそういうことを考えて、最初から設定しなさいと、牛乳パックでも良質なパックを使っているのやと、それはもったいないので回収したほうが良いかと回収したが、今度は再生しようとしたら大変で、製紙会社は山にもって困っているわけですので、そういうことのないようにきちっと考えてくださいよと当初も言っていたわけですが、他の自治体も悩んでこの結果だと思いますので、ベストな方法

というのは難しいと思います。今言われたように燃やしたら一番よいのか分かりませんが、今度はCO2がものすごく増えて、いろんなことを考えていったら、どこも皆問題点がありますし、難しいと思います。

委員：個々に見出したら、ビンでも透明ビンと茶ビンはいいが、他のビンは、私らのところへ業者が、何か使い道がないか来ています。正直ない。ビンの割れが刺さらないように、丸くカットする製法というか、そのところまでは行き着いたと、それを何に利用するかという利用方法がない。大変難しい問題も、でもそんなことを言っても地域審議会は進まないの、しかし二見町これで賛成ですというのも難しい部分があると思います。

委員：各地域にこれから説明会を行われると思いますが、その時には、こういう趣旨でやっているからこうなるんやという、単純に先ほども言われたけども、燃やしてしまったら一番早い、コストも一番安く済むんです。それではいけないから、こうするんやという根本のものを皆さんに提示してもらって、その間に、こういう考え方とこういう考え方とこういう考え方がある、これでいくとこういう財政シュミレーションになったりとかするんだと、これでいくとこうなる、その中でこういう方針でやるのでこの案をとったんだと、とらざるを得なかったんだという説明の仕方にしてもらわないと、伊勢市が今までこうやっているの、こうやりましょうとかいう説明の仕方だったら、住民が納得しないと思いますので、そこはきっちりとおさえておいてほしいと思います。

単純にコストを削減しなければいけないというだけではなくて、他のやり方もあったが、これではどういかなのやと、これだとこれが、だからこういうふうにはせざるを得ないんだという話でないと、納得しないと思います。そこは各地域に丁寧に説明していただきたいと思います。

委員：二見町だけやと思いますが、二見町はごみについては、やっぱりみんなが真剣に取り組んだということがあるので、そんなふうに思います。

会長：妥協の産物といいましたが、今副会長から言われたように、各地域での説明の場合に、こういう素案になったという必然性というか、それをもう少し理論武装して説明していただけたら、なお説得力があるのではないかと、他の自治会やいろんなことを考えたときになかなか難しい問題、やはり妥協していかなければいけないところもあると思います。妥協というのは色々な観点からだとそうなるということです。

委員：この前山村参事が基本方針を説明されましたが、変わらないんですね。

市：今のところ、この素案ということで基本方針を示させていただいてお

りますので、今のところはこれです。

ただ、地域審議会、自治会なりの意見を最終的にまとめて、もう一度案ということで出させていただけると思います。

会長：資源庫でも二見町と他所とでは違ってくる、一緒ではないですね。

地域によって格差があるでしょ、資源庫そのものでも、違いますか。

市：格差という言い方はおかしいですが、色々あります。

会長：なるだけなら行政のサービスの均一化ということで、できるだけそういうことも考えていただき、ようするに伊勢市観光都市としての、文化都市としての伊勢市ですので、少々予算を組んでも頑張ってやってほしい。

こんなこと何回も変えていたら、住民大変ですから。やる時はきちっと腹すえてやってほしい。

委員：先ほどの光の街の案に関しては、ここで決定するわけには当然いかないが、これは持ち帰って考えていただけるということですか。

支所長：まとめの中で加味させていただき、具申させていただく、そういう意味です。

今日のこの会議を踏まえ、二見地区地域審議会としての意見を環境生活部のほうへ出させていただきます。

部のほうの予定では、月末の議会の委員会協議会のほうに、素案を案と変えたもの、皆様方の意見を加味したものを、月末の協議会に出したいという意向を持っています。ですので、半月足らずのうちに、地域審議会の意見、それから自治会の意見を踏まえた形のものが、改めて案として出てきます。

そういう流れになりますので、それを改めて9月にもう一度地域審議会の場で、皆様方に説明させていただきます。それが次の地域審議会ということでご理解願いたい。

